

日本古典籍研究国際コンソーシアム
「日本国内外のくずし字教育」分科会（第2回）レポート

○時差の関係により、2部に分けて開催した。（参加者総数：30名＋事務局）

- ・2021年7月24日(土) 11:30～12:00（日本時間） 参加者：13名＋事務局
- ・2021年7月24日(土) 21:30～22:00（日本時間） 参加者：17名＋事務局

○前回の分科会（第1回、2021年4月）で提案されたとおり、立命館大学アート・リサーチセンター「くずし字解読支援・指導システム」のデモンストレーション・利用体験（板本『[夢合早占大成](#)』の翻刻）を行い、このシステムについて話し合った。

なお、デモンストレーション・利用体験は、立命館大学アート・リサーチセンター主催の講習会にて行い、話し合いは、講習会直後に開催された当コンソーシアムの分科会にて行った。

○分科会では、主に、以下3つの話題について話し合った。

1. 「くずし字解読支援・指導システム」を使ってみた感想
2. 「くずし字解読支援・指導システム」に関する質疑応答
3. 「くずし字解読支援・指導システム」を用いたコンソーシアム内での活動

1. 「くずし字解読支援・指導システム」を使ってみた感想

今回の分科会には出席できなかった窓口担当者から、事前にコンソーシアム事務局まで以下のコメントをお送り頂いた。分科会参加者と共有してもよい、との許可を頂いたので、その内容を分科会参加者と共有した。

「私は立命館 ARC 翻刻支援システムを使ってくずし字を勉強中なのですが、このシステムは本当に読めるようになるので面白いです。読めない字があっても AI の手助けを借りつつ、とにかくどんどん読んでいくという仕組みが私には合っているようでした。ただ、古文の文法知識や時代背景の知識が足らず、そこでつまづいてしまう（もしくは知識があるとそこから想像して読むことができる？）ことも多く、この辺りは次の課題だなと思っています。もしどなたか、この課題についてお薦めの図書などあれば是非教えて頂きたいです。」

講習会参加者の感想は、「意見フォーム」を通して収集し、立命館大学アート・リサーチセンターと共有することとなった。

2. 「くずし字解読支援・指導システム」に関する質疑応答

質問1. 個人が立命館大学アート・リサーチセンター「くずし字解読支援・指導システム」を利用するためには、どうすればよいですか。

回答1. 以下の連絡先にお問合せください。申し込んで頂くと、システムを使用できるようになります。(グループでの利用や、海外からの利用も可能です。)

立命館大学 研究部 衣笠リサーチオフィス
アート・リサーチセンター
文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」 事務局
担当： 木村・中村
〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
Tel: +81 (0)75-465-8476 (ext.2825)
email: r-darc@st.ritsumei.ac.jp
Website: www.arc.ritsumei.ac.jp/en/

質問2. 国文学研究資料館の「新日本古典籍総合データベース」で公開されているデジタル画像も、「くずし字解読支援・指導システム」上で翻刻することは可能ですか。

回答2. 可能です。その他、IIIF (トリプル・アイ・エフ) に対応しているデジタル画像であれば、「くずし字解読支援・指導システム」を利用して翻刻することが可能です。

質問3. 「くずし字解読支援・指導システム」では、添削者 (チューター) がつくということですが、添削はどのような体制で行われるのでしょうか。

回答3. 添削ができる大学院生・若手研究者を集め、チームを作る計画です。チューターにとってのメリットとしては、謝金が出ることに加え、国内外の利用者とのネットワーク作りができる、という利点もあります。まだ募集を開始していませんが、コンソーシアム参加機関を通して、添削に関心のありそうな大学院生・若手研究者を紹介して頂きたいです。

質問4. 「くずし字解読支援・指導システム」には、翻刻データを蓄積する機能も備わっています。蓄積されたテキストデータの公開方法や活用について、計画・方針等がありますか。また、翻刻データの著作権の取り扱いは、どのようになるのでしょうか。

回答4. 翻刻データは、利用者 (または利用グループ) ごとに、非公開に設定できます。あるいは、完成してから公開設定に切り替えることも可能です。公開された翻刻データは、原則として、誰でも自由に利用できるようになっていることが望ましいと思います。

3. 「くずし字解読支援・指導システム」を用いたコンソーシアム内での活動

主に、2つの提案があった。

①デジタル展示に向けた共同翻刻

- ・分科会として、「くずし字解読支援・指導システム」を使いながら、共同で古典籍を翻刻して、その成果を反映させたオンライン展示を企画・開催してはどうか。
- ・次回の分科会で、どの古典籍（1つではなく、複数）を翻刻したいか、話し合うとよいのではないか。
- ・皆で勉強しながら、翻刻方法についても議論を重ね、何らかの共通ルールが作れるとよいのではないか。

《分科会終了後、「意見フォーム」を通して頂いた意見》

- ・7/24の午前の部で提案された、デジタル展示を目指しての共同翻刻活動ができればと考えます。実施する際には、ARCの翻刻プログラムで訓練中の後輩職員と共にぜひ参加させていただきたいです。
- ・未翻刻資料がやはり面白いものだと思います。また海外に所蔵されている資料を、その機関の学生さんが中心となって翻字していただくと、在外資料への理解も深まり、教育上有用ではないでしょうか。
- ・研究者同士で共同作業を行ってみたいと思いました。研究者ごとに、日常的に扱う（得意とする、または不得意な）くずし字の種類があると思いますので、勉強会ができれば、お互いのスキルアップにつながるのでは、と感じました。

②日本語の学習者のための初心者向け勉強会

- ・「くずし字解読支援・指導システム」は初心者向けのシステムなので、日本語を学習している途中の学生が、このシステムを使いながらくずし字に親しめるような、初心者向けの勉強会があるとよい。その際、文章・文脈を理解する方法について助言できる経験者も、参加してくださっているとありがたい。

《分科会終了後、「意見フォーム」を通して頂いた意見》

- ・「コンソーシアム内で」にあたるかどうかわかりませんが、近い将来、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（IUC）の学生を対象に、この支援システムを利用して勉強するグループを作りたいと考えております。その上で、ある程度読めるようになったら、外の機関の研究者、大学院生、日本人の学生等と、共同作業ができるような場に発展させられれば、あるいは、既存のグループに参加する道筋をつけられれば、と思います。

・本システムを習得した人が、操作方法を伝授してゆくという輪を広げてゆくことに、期待している。3回～5回くらいで完結できる未翻刻作品を選んでの勉強会があっても良いと思います。

・くずし字を「翻刻」することと、古典籍や古文書の内容を「理解」することを明確に区別したうえで、トータルな「くずし字」教育の教材開発の中でARC翻刻支援システムを有効に活用していく方法を探ることができれば、面白いのではないかと感じました。

【皆様のご意見をふまえた、事務局からの提案】

・次回の「日本国内外くずし字教育」分科会では、オンライン展示を最終目標とした共同翻刻について、具体的な計画を練ってみてはいかがでしょうか。特に、どの古典籍（複数）を取り上げて翻刻するか、テーマを設けるかどうか、などについて意見交換できるとよいかもしれません。

・初心者向けの勉強会については、まずは、個々の参加機関内でグループを作り、将来的に、コンソーシアムを通して、他機関の所属者も共同作業に加われるようにする、という流れがよいかもしれません。引き続き、この分科会を情報共有のために活用頂ければと思います。

以上

(文責：日本古典籍研究国際コンソーシアム事務局)